

# 令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 体育科

## 改善の重点

- ① 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力をバランスよく育成できるよう、単元や内容のまとまり等を見通した「指導と評価の計画」を作成すること。
- ② 「めあて」に沿った「振り返り」がなされるよう、「ねらい」と「めあて」「課題」「活動」「まとめ」「振り返り」に一貫性のある授業を行うこと。

## 1 設定理由

小学校学習指導要領第2章第9節体育の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする学習活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること」と示されている。

このことから、小学校体育の授業では、運動や健康への関心・意欲を高め、それぞれの課題に向けて自ら考え工夫していく力を身に付けていくことができるよう、指導と評価の一体化がなされるような授業改善が求められる。

県内の小学校体育科では、「新大分スタンダード」による授業改善が進んでいる。しかし、「ねらい」と「めあて」「課題」「活動」「まとめ」「振り返り」が合致していない授業も未だ散見される。指導者側の目標である「ねらい」と児童側の目標である「めあて」を関連させることによって、指導者の「ねらい」を児童と共有することにつながり、「ねらい」と「めあて」の達成に向けてどのように活動を仕組みばよいかを、児童の実態を踏まえて考えることにもつながる。その上で、児童が「めあて」に沿った「振り返り」を行うことにより、一貫性のある授業が生まれる。知識及び技能の習得に偏ることなく、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力をバランスよく育成できるように、指導内容と評価規準の明確化、評価方法の工夫により、学習評価をより充実させることが重要である。

また、主体的・対話的で深い学びの実現がなされるよう、小学校体育の特質や学習過程を踏まえて、活用場面を見極め、1人1台端末を効果的に活用し、授業改善につなげることが重要である。

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「改善の重点①」については、単元全体の指導と評価の計画に対応した具体的な評価規準を作成し、評価方法を工夫すること。
- ② 「改善の重点②」については、「ねらい」と「めあて」に沿った活動の評価が、児童の次の学びにつながる観点から、児童自身が「めあて」に沿った「振り返り」ができていることが重要である。その「振り返り」の内容を基に、児童の学習状況を適切に把握し、授業改善に活かしていくこと。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校体育  
(国立教育政策研究所)
- ② 早わかり！単元計画の作成手順 (大分県教育委員会)